

校内研修計画

1 学校課題

本校児童全体を見ると、学力面、健康面、ものの見方や考え方、家庭の養育態度や経済力など様々な事項に対して、それぞれに大きな個人差が見られる。

児童一人一人に対して、個に応じた指導（個性化個別化）に心がけているが、現実には、ゆとりが無く十分な指導とまではいっていない。

本校では近年、発達障害児及びその傾向児童が増加し、学習指導及び生徒指導において学級経営上の課題になっていて、今後もこの傾向は続くという実態がある。

新学習指導要領に基づく本校の教育課程を充実したものにしていく。

2 研究主題 「どの子も伸びる授業の改善」

～特別支援教育の視点を生かした授業づくり・Q-Uを取り入れた集団づくり～

3 主題設定の理由

昨年度から新学習指導要領が完全実施され、教科書は、平均して25%ページ数が増えている。これは、当然教える内容が増えているということだが、ゆとりの無い時間割（教育課程）の中で、定められた学習内容をすべて身に付けさせるには、「どの子にもわかる授業」を仕組んでいかなければならない。また、同時に県や市の指導重点の実施と、本校の学校教育目標やめざす子ども像、「生きる力」の具現化を図るためにも充実した授業を仕組んでいかなければならない。

一方、本校の子どもたちの実態を見ると、学力面、健康面、ものの見方や考え方、家庭の養育態度や経済力など様々な事項に対して、どれも大きな個人差が見られる。また、近年は発達障害児及びその傾向児童が増加し、全校児童の約5～10%を占めていて、学習指導及び生徒指導において大きな課題となっている。この課題に対応するために昨年度から特別支援の手法を授業や環境に取り入れ、学習のユニバーサルデザイン化を図り、支援の必要な児童、さらには学級全体の児童まで「わかる授業」を目指し、研究・実践を重ね成果を挙げてきた。今年度もさらにこの手法を研究し、どの子も伸びる授業の改善を図っていく。さらに、家庭での学習のあり方も考えながら、児童の学ぶ力を伸ばしていきたい。

また、昨年度の研究の過程で、効果的に「わかる授業」をするためには集団づくり（学習規律・認め合う雰囲気）が必要であることが再確認された。そこで本年度は、昨年度確認された学習規律をさらに全校的に徹底していくこと、市全体で実施するQ-U検査を活用し、学級集団や個々の児童への理解を深め、課題となる点やその対応方法について研究・実践していくことに重点を置きながら、集中して学習に取り組める学級集団づくりを目指していく。

尚、特別支援学級の児童たちには、今までと同様に個の実態に応じたきめ細かな指導をしていく。

4 研究の具体的内容と方法

児童の実態把握と支援計画の作成（ひまわり、オープン教室対象児を中心に）
ユニバーサルデザインを取り入れた授業実践

特別支援教育の視点に立った学習環境の整備

Q - U検査を活用した集団づくり

~~~~~家庭での学習のあり方・保護者との連携~~~~~

## 5 研究仮説

学習過程や学習環境に特別支援教育の視点（ユニバーサルデザイン）を取り入れ、すべての児童に分かりやすい授業づくり・集中できる環境づくり・認め合う集団づくりを進めることにより、児童の学習意欲が向上し、学ぶ力が育成されるであろう。

「学ぶ力」

- ・主体的に学ぶ
- ・共に学ぶ
- ・学び方がわかる

## ユニバーサルデザイン

「すべての人にとって、できる限り利用可能であるように、製品、建物、環境をデザインすること」と定義されており、もともと建築や工業デザイン分野の用語であった。ユニバーサルデザインとは、以下の7項目を原則としている。

- 誰にでも、公平に利用できること
- 使う上で自由度が高いこと
- 使い方が簡単ですぐわかること
- 必要な情報がすぐ理解できること
- うっかりミスや危険につながらないようなデザインであること
- 無理な姿勢をとることなく、少ない力で楽に使用できること
- アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

（「小学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり」東洋館出版社）

## Q - U

学校・学年・学級集団診断ツール

「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ - U（Questionnaire - Utilities）」  
（図書文化社）

## 6 検証方法（学ぶ力育成の検証として視点を以下にする）

### （1）学習意欲（興味関心）

- ・自己評価カード
- ・本時の中で、（発言等）観察可能な範囲で記録

### （2）学ぶ力

- 1時間ごとの「本時の目標」到達の様子（形成的評価）
- ・つまずきの把握と指導の手だて

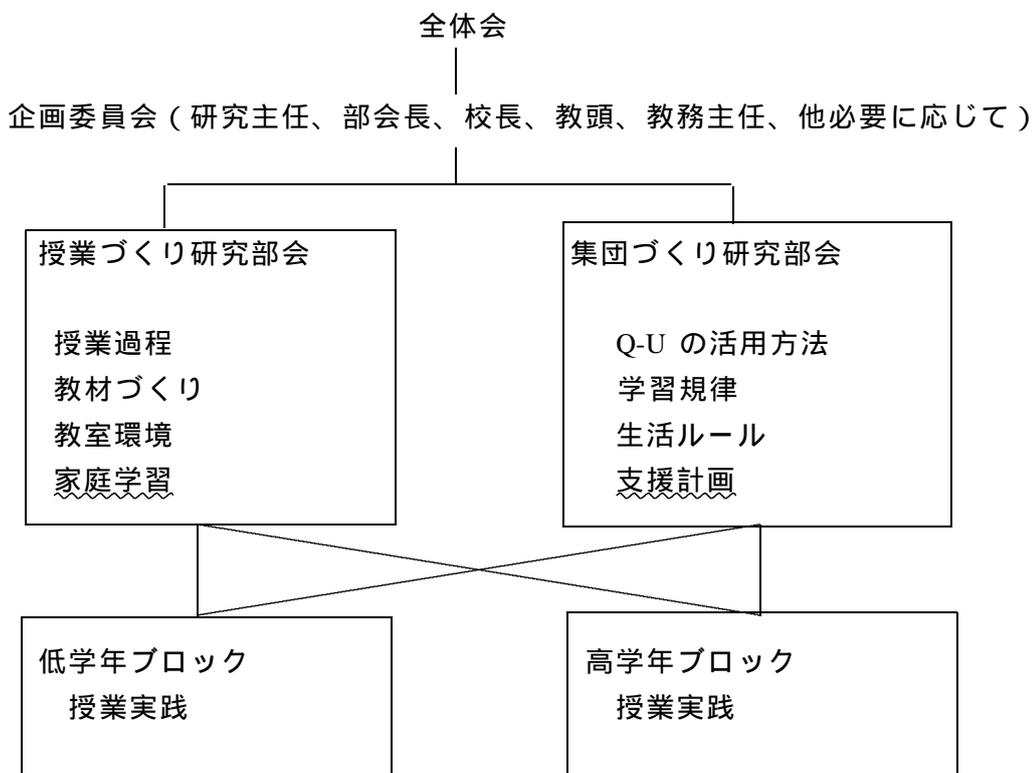
1 单元ごとの目標到達の様子（総括的評価）

- ・つまずきの把握と指導の手だて

(3) その他

- ・作品（授業の中で作業等で作成した物）
- ・家庭学習の様子

## 7 校内研究組織



(研究内容例)

- 授業づくり研究部会
- ・授業過程（ユニバーサルデザインの取り入れ）
  - ・教材の工夫（PC、色分け、カード、模造紙等提示の仕方など）
  - ・授業に集中できる教室環境の工夫
  - ・家庭学習の内容・方法・保護者との連携のあり方
  - ・講師や指導主事の招聘

- 集団づくり研究部会
- ・Q-Uの活用方法（分析方法・集団づくり授業実践）
  - ・効果的な学習規律（コミュニケーション、意思表示・・・）
  - ・学習規律の全校での確認
  - ・生活ルールや学習規律の身に付けさせ方

- ・講師や指導主事の招聘
- ・発達障害児の実態把握と指導法の工夫

8 授業実践

- (1) 低学年ブロック・高学年ブロック各1本の授業研究(2学期を中心に)
- (2) 一人一実践

9 校内研究組織構成

印が部会長

|      | 授業づくり研究部会 | 集団づくり研究部会 |
|------|-----------|-----------|
| 教務   |           |           |
| 1年   |           |           |
| 2年   |           |           |
| 3年   |           |           |
| 4年   |           |           |
| 5年   |           |           |
| 6年   |           |           |
| 特別支援 |           |           |

10 研究計画(主な内容)

- 1学期 Q - U 検査についての研究(内容・分析方法・活用方法等)講師招聘
- 2学期 授業研究
- 3学期 研究のまとめ